

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・56〉 いわき市立 植田小学校
〈実施日〉	平成28年 6月 24日(金)
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ○ 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()
〈実践内容〉	(1) 学級活動「ほうしゃ線とは何だろう?何に気をつければいいのか」 (2) 本時のねらい ○ 放射線、放射性物質の存在を知り、体にたくさん取り込まないように気を付けて生活しようとする態度を育てる。 (3) 学習の流れ 1 放射線、放射性物質の意味を考えさせ興味を持たせ、本時のめあてをつかむ。 2 学習教材「放射線のおはなし」のDVDをもとに、放射線、放射線物質の意味を知る。 ・ 放射線は、空気と同じように目には見えないものであること。 ・ 放射線は、日常生活の中で昔から存在していたこと。 ・ レントゲンや殺菌、電気を作るために使われ、生活の役に立っていること。 ・ 東日本大震災にて、発電所から放射性物質が大量に放出されたこと。 ・ 生活に大切な火や水も、大量にあると困るように、放射線も体外・体内に大量に取り入れると危険であること。 3 放射線をたくさん取り込まないように生活するには、どのようなことに気をつけたらよいかを考える。 ・ 手洗い・うがい、顔あらいをする。 ・ 風の強い日には、窓を閉める。ほこりをはらう。 ・ お風呂やシャワーを浴びる。 ・ 土遊びの時など、土を口に入れない。(「放射線等に関する指導資料」のワークシートを使用)
〈成果〉	○ 低学年の子ども達は、東日本大震災の言葉は知っていても、当時の様子やその影響に対してはほとんど知らない状態であった。放射線の意味も分からない様子だったので、DVDを使用し視覚から学習することで理解できた子も多かった。 ○ 体に取り込まないための方法は、日頃行っていることと変わりなく取り組めばよいことを理解することができた。
〈課題〉	● 放射線に過剰に反応することはないが、体内に入れないということを意識して生活することは大切なので、今後も原子力発電所の事故のこと、放射線と健康な体について、指導していかなくてはならないと感じた。 ● 資料の活用の仕方や情報など、教師側も正しい知識をもって指導にあたらなければならないことが難しいと思った。
資料作成担当者 職(教諭) 氏名(宗像 みどり)	学校電話番号(63-4000)

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)